

国語 3 本を選んで友達で紹介する（椋鳩十「金色の足あと」）

3

木村さんの学級では、人と動物との心の交流が描かれている物語を友達と紹介し合うことにしました。木村さんは、椋鳩十の「金色の足あと」を選びました。次は、「物語『金色の足あと』のあらすじ」、「木村さんの考え」、「物語の最後の部分」【ふせん①】から【ふせん④】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【物語『金色の足あと』のあらすじ】

山でつかまり、正太郎の家にとらえられた子ギツネは、人間になつかず、えさを食べようとしませんでした。子ギツネの親たちは、正太郎の家の床下に巣をつくって身をかくし、子ギツネに乳を飲ませたり、食べ物をあたえたりします。そして、子ギツネがつかれた丸太をかじって、何とか助け出そうとします。正太郎は、必死に子ギツネを救おうとする親ギツネの深い愛情に心を打たれ、そつとえさをやりながら、応援していました。しかしある日、正太郎の父が、親ギツネを見つけ、銃でねらいます。正太郎は、とっさに銃身にとびつき、親ギツネを助けたのです。

【木村さんの考え】

人と動物との心の交流は、この物語の最後の部分に一番表れていると思う。正太郎とギツネの行動や情景に気をつけてもう一度読み、心の交流が分かるころをふせんにまどめよう。



【物語の最後の部分】

【ふせん①】

「うたえました」という言葉から、
気持ちが伝わってくる。

（椋鳩十「金色の足あと」による）

【ふせん②】

「しう」という言葉から、二匹のギツネが正太郎を助けようと、必死に働きかけているすがたが分かる。

【ふせん③】

「じい」とまぶたのなくがあつくなるというところから、正太郎の感動が伝わってくる。

【ふせん④】

「まはゆい朝日」と「足あと」は、金色にかがやいて」といふところから、正太郎がギツネたちをかがやかしいると感じているということが分かる。

（椋鳩十「金色の足あと」による）

一 「ふせん①」の に入る内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 安田さんが、子ギツネのいないことにおどろき、もらわれていったことにほっとしている
- 2 正太郎が、子ギツネのいないことにおどろき、もらわれていったことにはっとしている
- 3 安田さんが、子ギツネのいないことにおどろき、どこにいったのかを心配している
- 4 正太郎が、子ギツネのいないことにおどろき、どこにいったのかを心配している

二 木村さんは、「ふせん②」を書いたあと、文の意味をもう一度確認するために、——部イとウの文を読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

- (1) 次のイの文について、~~~~部がくわしくしている言葉として適切なものを、あとの1から3までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

(標鳩十「金色の足あと」による。)

- 1 すいぶん
- 2 時間が
- 3 すぎました

- (2) 次のウの文について、~~~~部がくわしくしている言葉として適切なものを、あとの1から3までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

(標鳩十「金色の足あと」による。)

- 1 正太郎の
- 2 ほおやくちびるを
- 3 なめまわし

三 木村さんは、「ふせん③」に、「じつとまぶたのおくがあつくなる」というところから、正太郎の感動が伝わってくる、と書きました。木村さんは、正太郎が何に感動したと考えていますか。その内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 正太郎がこゝえないように、親ギツネがからだの上のつてあたためたこと。
- 2 正太郎が谷の底に落ちてしまいそうになったところを、親ギツネが助けたこと。
- 3 親ギツネが正太郎のまぶたをなめ、まぶたのおくまであたたかくなったこと。
- 4 親ギツネがとらえられた子ギツネを助けるために、丸太をかじり続けたこと。

四 木村さんは、——部オを——部ア、エと関係づけて読み、「ふせん④」を書きました。木村さんが「ふせん④」に、正太郎がギツネたちをかがやかしいものと感じている、と書いた理由の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 木村さんは、まばゆい朝日に照らされて、深い林のおくまで春の雪がさらさらとかがやいていると考えたから。
- 2 木村さんは、正太郎が親ギツネの行動に心を動かされ、ギツネの親子の幸せを尋んでいると考えたから。
- 3 木村さんは、「ギツネの親たち」、「二ひきで」、「ギツネども」という言葉から登場人物の様子が分かると考えたから。
- 4 木村さんは、朝日で金色にかがやく風景に、正太郎の父のすがすがしい気持ちが出ていていると考えたから。

1. 出題の趣旨

物語を読んで、叙述を基に登場人物の相互関係や心情などを捉え、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

本問は、平成29年度【小学校】国語B³三（正答率43.9%）において、「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること」に課題が見られたことを踏まえて出題した。

物語などを読む際は、時間や場所、問題状況などの設定、情景や場面の様子の変化、主人公などの登場人物、登場人物の性格や行動、会話及び心情の変化、事件の展開と解決などの基本的な構成要素を、叙述を基に理解した上で、想像を豊かにしながら、読むことが大切である。高学年では、登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、そのことによって、内面にある深い心情も合わせて捉えること、象徴性や暗示性の高い表現や内容などに気付き、自分の考えをまとめることが求められる。

本問では、人と動物との心の交流が描かれている物語を友達と紹介し合うために、棕鳩十が書いた「金色の足あと」を読み、自分の考えをまとめる場面を設定した。木村さんは、紹介したい場面をもう一度読み、叙述から伝わってくる心の交流を付箋にまとめている。ここでは、場面の様子や登場人物の心情などの叙述を基に、自分の考えをまとめることが求められる。

2. 調査問題の活用にあたって

登場人物の相互関係や心情について描写を基に捉えることや、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることについて、新学習指導要領に基づいて本問の趣旨を生かした授業を行う際の例として、次のような指導事例を紹介する。本問では、「金色の足あと」を取り上げているが、本事例では、第5学年の教科書に掲載されている「大造じいさんとがん」を取り上げた。

【授業アイデア例】

「物語の魅力を紹介カードで伝え合おう 大造じいさんとがん」 ～叙述を基に登場人物の相互関係や心情を捉え、自分の考えをまとめる～	〈実施対象学年〉 第5・6学年
【指導のねらい】 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるようにする。 〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）イ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるようにする。 〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）エ	

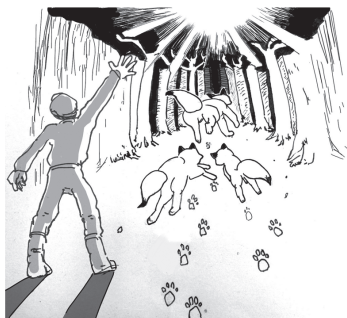
〈学習の流れ〉

	主な学習活動	指導上の留意点
①	○ これまでに読んだ物語について、心に残ったことなどを発表し合う。 ○ 教師が作成した「金色の足あと」の紹介カードをみて、「心に残る一文」とその理由を書いたカードで物語の魅力を紹介し合うという学習の見通しをもつ。	■ 物語の魅力について、これまでの学習を想起できるような話し合い活動を設定する。 ■ 本問の「金色の足あと」を用いて教師が作成した紹介カードを提示し、「心に残る一文」を基に物語の魅力を伝え合うという学習の見通しをもつことができるようにする。 ■ 「金色の足あと」の読み聞かせをする。
②	○ 「大造じいさんとがん」を読み、登場人物や出来事などを確認する。 ○ 心に残る文を見付けながら読む。	■ 全文を一枚の用紙に掲載したシートを準備し、児童が線を引いたり書き込んだりできるようにする。学習を通してこのシートを活用することで、自分の思考過程を視覚的に捉えることができるようにする。
③	○ 友達と交流しながら、見付けた文の中から「心に残る一文」を選ぶ。 (P. 29 参照)	■ 自分が見付けた文について友達と交流する活動を設けることで、物語の魅力を紹介するために、最も伝えたい「心に残る一文」を選ぶことができるようにする。 ■ シートを活用し、関連する叙述を線で結んだり、想像したことや選んだ理由を書き加えたりすることで、互いの読みをつなげたり比較したりすることができるようにする。
④	○ 「心に残る一文」を選んだ理由を友達と交流する。	■ ペアやグループで交流する活動を設け、「心に残る一文」を選んだ理由を明らかにすることができるようにする。 ■ 全体で交流する活動を設け、それぞれの「心に残る一文」をまとめて示し、児童が魅力に感じる叙述が集中する場面などを中心に話し合うことができるようにする。 ■ 「心に残る一文」に情景描写を選んである児童を意図的に取り上げ、その理由について話し合うことで、登場人物の心情が情景を通して暗示的に表現されていることに気付くことができるようにする。

	○ 「心に残る一文」とその理由には、以下の観点があることをまとめる。 (例)・登場人物(人物像, 相互関係, 心情の変化) ・物語の設定(場面設定, 展開) ・表現の工夫(情景描写) (P. 30～P. 31 参照)	■ 「心に残る一文」とその理由を板書で整理することで、物語の魅力を伝えるための観点をまとめることができるようにする。
⑤	○ 友達と交流したことを基にして、紹介カードを作成する。	■ ④でまとめた観点を参考に、「心に残る一文」とその理由を紹介カードにまとめることができるようにする。
⑥	○ 紹介カードで物語の魅力を伝えて合って感想を交流し、学習を振り返る。	■ 物語の魅力を伝えるために、心に残る叙述とその理由を見付けながら読むことの有効性を実感できるようにする。 ■ 本学習で身に付いた力や、今後の学習などに生かしたいことについて振り返ることができるようにする。

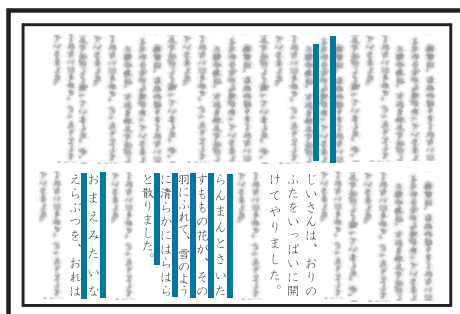
〈教師が例示する紹介カードの例〉

この文は、山に帰っていくキツネの親子を正太郎が見送る場面の様子を表している。「まばゆい朝日」と「足あとは、金色にかがやいて」という表現には、この場面の景色だけではなく、これまでの親ギツネの行動やキツネの親子の未来を「かがやかしい」ものと感じている正太郎の心情が表れている。親ギツネが、つかまつた子ギツネを必死で救おうとしたり、雪山で自分を助けてくれたりしたことへの感動や、これからのキツネの親子の幸せを願う正太郎の気持ちが伝わってきて、物語の魅力につながる一文である。	○心に残る一文 「ちょうどそのとき、まばゆい朝日に、キツネどもの足あとは、金色にかがやいて、深い林のおくにつづいていくのでありました。」	○選んだ作品 金色の足あと	物語の魅力を「紹介カード」に書いて伝え合おう。
年 組 名前			



③ 友達と交流しながら、見付けた文の中から「心に残る一文」を選ぶ。

〈心に残る文に線を引いたBさんのシート〉



Bさん



Aさん

私は、「おまえみtainなえらぶつを……。」の一文が、一番心に残るんだよね。正々堂々と戦おうとする、大造じいさんのすがすがしい気持ちが伝わってくるからなんだ。

僕もその文がいいと思ったよ。でも、その前の「らんまんとさいた……。」の文も何となく心に残るから迷っているんだ。



Bさん



Aさん

どうして「らんまんと……。」の文が心に残るの。

「らんまんと」とか「清らかに」という言葉が、すごくきれいで晴れやかな感じがして、大造じいさんが残雪を見送る場面の様子が目に浮かぶからかなあ。



Bさん



Aさん

晴れやかというのは、場面の様子ではあるけれど、大造じいさんの気持ちでもあるかもしれないよ。それは、私が選んだ一文の大造じいさんの気持ちと重なるね。



Cさん

「じいさんは、おりのふたをいっぱい……。」にも、大造じいさんの晴れやかな気持ちが表れていると思うよ。

そうか。大造じいさんの気持ちは直接書かれていないけれど、この景色の描写から大造じいさんの気持ちが伝わってきて、心に残ったんだな。この「らんまんと……。」の文に決めたよ。



Bさん

ポイント

物語の魅力を伝えるために、「心に残る一文」とその理由を考えることで、複数の場面の叙述を関係付け、登場人物の心情などについて叙述を基に捉え、自分の考えをまとめることができると考えられる。その際、どの表現に着目したのか、そしてどの叙述と結び付けて自分の考えの理由付けにしたのかを説明できることが大切である。

登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もあるが、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もある。したがって、文章の表現の仕方に注意し、想像を豊かにしながら読むことが大切である。

④ 「心に残る一文」を選んだ理由を友達と交流し、その観点をまとめる。

物語の魅力を紹介カードで伝え合おう

めあて
「大造じいさんとがん」の魅力を伝えるために、「心に残る一文」と選んだ理由を明らかにしよう。

「大造じいさんとがん」

そして、冷え冷えするじゅう身を、きゅつとにぎりしめました。
が、なんと思っただか、また、じゅうを下ろしてしまいました。
しかし、第二のおそろしい敵が近づいたのを感じると、残りの力をふりしぼって、ぐつと長い首を持ち上げました。
らんまんとさいたすももの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらりと散りました。
は、ひきようなやり方でやつけたかないぞ。

ひとあわふかせるぞ
← 心情の変化
なんと思っただか、じゅうを下ろす
登場人物の関係
気持ちが変わる情景
情景描写
※他の作中比かく

物語の魅力を伝えるための「心に残る一文」として、どの文を選びましたか。



僕は、「が、何と思っただか……。」の一文が心に残りました。理由は、大造じいさんの気持ちの変化が分かるからです。前の叙述で、「そして、冷え冷えするじゅう身を……。」という文があり、この場面では、残雪にひとあわふかせるぞという気持ちだったけれども、おとりのがんを救う残雪を見て、大造じいさんの気持ちが変わるところが意外で印象的だったからです。



理由は違いますが、私も、同じ一文を選びました。なぜなら、この文から大造じいさんと残雪との関係が変わったことが心に残ったからです。



私も、大造じいさんと残雪との関係に着目しましたが、選んだ文は、「しかし、第二のおそろしい……残りの力をふりしぼって……。」です。理由は、大造じいさんが残雪に対して、がんの頭領としての堂々とした態度やいげんを感じたからです。その様子を見て、大造じいさんは、ただの鳥に対してのような気がしなくなったのだと思います。

なるほど、「心に残る一文」を選ぶときに、同じ一文を選んだとしても選んだ理由が違う場合や、同じ理由だったとしても違う一文を選ぶ場合があるんですね。Bさんは、違う文を選んでいましたね。



僕は、「らんまんとさいた……。」の一文を選びました。その後の文の「おまえみtainえらぶつを……。」には、はっきりと大造じいさんの気持ちが描かれているのですが、作者の椋さんは、大造じいさんの気持ちを、情景を通してこの一文で表していると思ったからです。この一文から、残雪を見送る大造じいさんの心情がより伝わってきます。



Cさん

僕も、Bさんと同じ文を選びました。色を連想させる情景描写が心に残るので、魅力を伝えるなら、この一文が一番いいと思いました。先生の紹介カードにあった「金色の足あと」を改めて読んでみたらキツネの親子を見送る最後の一文の、色を連想させる描写に登場人物の心情がよく表れていました。「らんまんと……。」の一文も空の色や、すももの花の色の描写が、大造じいさんの心情を表していて印象的です。

物語の魅力を伝えるために、心情の変化、登場人物の関係、情景描写などの観点から「心に残る一文」と理由をまとめましたね。今日の学習を振り返ってみましょう。



教師



Bさん

僕は、物語の魅力は、いろいろな観点で考えたり、Cさんのように他の作品と比較して読んだりすると伝えられるということが分かりました。



ポイント

物語の魅力について友達と交流することで、自分の考えを広げたり確かなものにしたりすることができる。その際、児童が互いの考えを比較したり、分類したりしながら読みを深めていけるようにすることが大切である。そのための支援として、教師が児童の発言を意図的に取り上げて、つなげたりまとめたりしながら板書で整理することが考えられる。また、物語全体の場面が俯瞰できるシートを用いて関係する叙述を線で結ぶなどして視覚化することも有効である。

児童が考える物語の魅力の観点は様々であり、「人物像」や「物語の展開」など本時で取り上げたもの以外にも考えられる。

【活用のポイント】

- 児童が物語を読むときには、目的が曖昧なまま登場人物の相互関係や心情の変化などを読むのではなく、明確な目的をもって読む活動を促すような言語活動を設定することが重要である。本事例では、物語の魅力を紹介カードに書いて伝え合うという言語活動を設定し、「心に残る一文」を見付けるために、優れた叙述などに着目して読んだり、複数の叙述を関係付けて読んだりしている。なお、「紹介する」という活動においては、紹介カードを作成して伝える他にも、ブックトークで紹介したり、ポップを書いて紹介したりするなど、さまざまに工夫することが考えられる。
- 本事例では、児童自らが「心に残る一文」を見付け、自分の考えをまとめるという活動を行っている。このように、教師に提示された叙述を全員で同じように取り上げるだけでなく、児童が自分の心に残る叙述を選び、その理由や具体的に想像した自分の考えをまとめるなど、主体的に読むことが重要である。
- 優れた叙述は、一つの作品だけでは分かりにくい場合もある。同じ作者の作品を比べて読む活動を取り入れるなど、児童が自分で優れた叙述に気付いていくことができるように学習を展開することも考えられる。

3. 出典等

棕鳩十『片耳の大シカ』（1975年12月 偕成社）による。

棕鳩十「大造じいさんとがん」